

● 第7回多摩市自治推進委員会

平成21年12月16日18:30~21:00

多摩市役所 特別会議室

出席者： 江尻委員長 磯崎副委員長 大木委員 金委員 益子委員 横倉委員

事務局： 企画政策部長 企画課長 企画調整担当主査 企画課主任

傍聴者： 2人

審議

・自治推進委員会の取り組みについて

今後の予定

・第8回1月20日(水)

委員 前は、青少年問題協議会地区委員会の二人の会長と児童青少年課長から話を聞いた。本日は、皆さんからその感想を伺いたい。また、多摩大学と多摩市自治連合会が実施した多摩市自治会・町会・管理組合実態調査の結果報告会が12月6日にあった。二人の委員が出席したが、全ての委員が事務局から事前に資料を受け取っていると思うのでそのあたりの話もしたい。

まず、青少年問題協議会地区委員会について意見交換する。前回、出席していただいた会長二人はすごくパワーがあるように思った。もし会長が引越などの何らかの理由で不在になる場合の後継者、人の問題が気になった。二人とも自ら地域の中に進んで出て行って地域にネットワークをつくっていているところが印象的だった。よく人材を育てるとか、地域の中では人材が必要だという話があちこち出ているが、まさにそれがはっきりとわかった。人というものが地域の中でどんなに大事かわかった。また、青少年問題協議会地区委員会は子ども、若い層をターゲットにして活動している団体だが、子どもという一つのキーワードがあるとそこにいろんなものがくっついてくることもわかった。例えば、高齢者と一緒に活動することによって、子どものためだけでなく、高齢者のいきがいにもなることもわかった。子どもだけ、保護者だけ、高齢者だけを対象に活動するというのではなく、もっと一緒になって地域でできることがあると思った。

委員 同じ落合にある二つの地区委員会だったが、ずいぶん違った形で地域との接点を持っていると思った。その意味でいうと同じぐらい関わっていても地域によってすごく差がある。地域とどれだけつながっているかで大変さの感想が違うと思う。夏祭りがずっとつづいているのは、単に地区委員会があるだけでなく、そこに住む人たちが地域は自分たちが見守っていく、地域とつながっていくという意識があるからだと思う。どうやってつなげていくかも課題だと思う。問題は子どもだけではない。

委員 思った以上につながりがあると思った。

委員 地元にいるのは保護者と子どもを中心にそこからひろがっていく。

委員 団体によって大分差があると思う。地域によって差があるのは、地区委員会が何をやっているのか良くわからないからだと思う。地区委員会に限らず、その他の団体についても良くわからない。その辺りをもっと活動内容を知らせることが必要と思った。

委員 前はニュースを配っているという話があった。

委員 それは団体の努力でやっていることだが、それを援助できないものか。

- 委員 コミュニティセンターは形があるのでわかりやすいが、今まで関わってこなかった人が活動に参加することはあるのか。
- 委員 コミュニティセンターでも新規に参加する方が少ないという悩みはある。地区委員会も自分の子どもが青少年だからやっても、成人してしまうとほとんどの方には視野に入らないと思う。だから何をやっているのかわからないということになる。前回の感想としては、組織図はしっかりしているが、意外と組織立っていない。個人のボランティアで支えられている部分が非常に大きい。それぞれの地域には PTA、民生委員、防犯協会、駐在の方がいる。地区委員会を取り囲むいろいろな問題のコミュニケーションがもっとあると思う。その中にコミュニティセンターの代表が入ってもいいと思う。階層的な情報の交換がなされていないのでは。その辺の話は聞けなかった。
- 委員 地区委員会の位置づけが地域の中で明確になっていない。
- 委員 地区委員会の地区割りで良いと思うが、例えば、市が多少の助成金を出してホームページをつくる。そこに地域の情報として各々が青少年に関する情報を持ち寄るようなことをこれから考えていっても良いのかなと思う。
- 委員 地区割りというのはいろんなものがある。学校の統廃合などによって地区委員会のエリアが左右されてしまう。本当に良いのかなと思った。
- 委員 人が大事。地域の中では重要。地区委員会の会長の話で、自治会の協力が必要だといっていたが、自治会は地区委員会との接点が他の団体よりあるように感じる。一人ひとりががんばっても持続力がない。それを市が支援する仕組みが必要だと思う。
- 委員 地区委員会は、地域の人にそれが何かあまりにも知られていないこと、地域での位置付けがはっきりしないこと、あと人の問題がある。人の問題はいつも出てくる。自治会にとって、自治会の中の青少協というのは余り意識しないでもいい状況か。
- 委員 自分のところの自治会はあまり連絡を取っていない状況。前回の話を聞くと自治会もやらねばならないと思う。
- 委員 昔から子ども会というのがあって、それが母体になって子どもの見守りをやっている。それが地区委員会の中に一つの組織として入っていた。今は地域的には子ども会がないところや会が成り立たなくなっているところが増えている。そこで子どもを考える役割を地区委員会が担っている。そこに学校の PTA が加わっている。地域の中で中学生くらいまでの子どもを持っている保護者にとって、地区委員会は身近な存在。貝取の地域では、地域の中にいる高齢者や子どもを持つ保護者をひっくるめた行事をするといろいろな人が出てくる。コミュニティセンターを中心にして共催するそういう行事を行うといろんな年齢層に効果がある。ニュータウンの管理組合にポスターを張ったりするといろんな年代が参加する。年々参加者は減っているが。
- 委員 子どもがいる家庭が一番多い。しかし、子供がいる家庭が減ると小さくなっていく。
- 委員 防犯的な事柄が子どもの範疇を超えて高齢者の見守りなど地域の問題として受け入れられるポイントになる。地区委員会は自治を進める組織としての可能性はあると思う。
- 委員 地区委員会は地域の中で関わるきっかけ作りにはなるが核にはなりにくい。コミュニティセンターの場合には子どもからお年寄りまでターゲットが広いと思う。子ども会はどんな感じか。
- 事務局 子ども会については、組織立ててはつかんでいないので、実態がわからない。

- 委員 私の地域では25年前からの入居で、10年ぐらい前から子ども会の対象になる子が減って、数人になってしまい有名無実化している。子ども会が活発だった頃はいろいろやった。そのうちの一つの資源回収は今もほとんどの家庭が協力してやっている。資源ゴミは子ども会の名義で集めている。
- 委員 私のところでは、青少年のイベントはあるが、子ども会のことは余り聞かない。学童クラブと児童館が一緒になってやるイベントはある。
- 委員 唐木田には子ども会はあるが人数は少なくなっている。新聞の回収は毎月やっている。夏とクリスマスにもイベントをやっている。地域の神社ではお祭りの時に紙灯籠の絵を子ども会にお願いしている。
- 委員 夏のラジオ体操も数人では面白くないということで、老人会と一緒にやっている。地域の子どもたち同士で遊ぶ事はすごく大事なようだ。大人になっても付き合いが続いている。
- 委員 子ども会の活動が地区委員会の活動に変わったり、子ども会がないところでは地区委員会が子ども会の代わりをやっている。児童館や学童クラブは子供向けのイベントをやっているのか。
- 委員 結構やっているようだ。
- 委員 児童館はかなり認知されているようだ。場があり見えるということが大きいようだ。
- 委員 前回の話で意外だったのは、青少年問題協議会は法律があつて市の附属機関であるということ。行政とのつながりを教えて欲しい。市政とのつながりを持ちやすい組織だと思った。
- 事務局 児童青少年課長の説明の繰り返しになるが、青少年問題協議会というのは地区委員会とは別の組織になる。協議会は三つの専門部会を設けている。そこでの調査検討とは別に地区委員会がある。活動はそれぞれ別。地区委員会は主に連絡調整や情報交換、環境浄化などを行っている。
- 委員 専門部会の中で連絡がとれているのでは。地区委員の会長が青少年問題協議会の構成員になっているので、連携できると思うが。
- 事務局 組織論から言えばそのとおりだが、実際論では総会ではいろんな団体の代表者などが来るが、市長に対する提言というよりは情報交換が実態になっている。現場で活躍されている人たちを支えるということが青少年問題協議会にはある。
- 委員 地域を活性化する役割、情報交換の役割は持っているが、市との関係において、市に対して直接提言をするような役割は地区委員会では担っていない。
- 事務局 青少年問題協議会と地区委員会の関係は相互補完の関係にある。青少年問題協議会でまとめられた意見を地区委員会が地域の実情に沿った活動をしていく。また、地域だけで解決できない問題を青少年問題協議会でまとめて考えるということをやっている。
- 委員 市長の附属機関であるということであれば意見の具申を、市民自治という観点から政策提言をしても構わないと思う。市側からも青少年問題協議会に対しての問い掛けが少ないと思う。青少年問題協議会と市のコミュニケーションがもっとあれば良いと思う。
- 委員 地区委員会から市に対して提案があつたことが過去にあつたか。
- 事務局 組織的には地区委員会にこういう問題があつたということが青少年問題協議会に報告されて、その中の健全育成委員会で検討して本会議に報告する。それを市に意見具申、提言報告するのが組織上のルール。

- 委員 地区委員長から話をするというのはルー尔的にできないのか。
- 事務局 青少年問題協議会の方に自由に言える扉は開かれている。
- 委員 青少年問題協議会がどう動くかが大変大きいということか。
- 委員 翌年に何かをしようかという話しになると前のことありきになる。人が回転しないことも原因の一つでマンネリ化している。PTAのお母さんや学校の校長先生、指導主任は自動的に顔が変わっていくので、そこで発展性があってもいいのと思うが。改善案はなかなか出ない。補助金をやっている事業はなかなか変わらない。もうちょっと効果的に出来ないのかなと思う。認知度のアップに対して行政との連携は必要だと思う。そういうところにも行政の関わりがあってもいいのかなと思う。
- 委員 実態としては地区での活動が忙しく、他の地区との連携が忙しくて、市との連携まで気持ちが回っていかないのかなと思う。
- 委員 青少年問題協議会全体でやっていることは地区でやらなければならないという意識はあると思うが、実際に担っている人からすると地区では忙しくてできないということのようだが。青少年問題協議会には学校の校長先生が入っているので、例えば学区ごとに学校と一緒にやっていく可能性はあると思うが。今の学校の先生は参加しているのか。
- 委員 地域によって差がある。校長や副校長の人柄によるところが大きい。
- 委員 地区委員会に期待したいというのが自治推進委員会の考えだと思う。自分のまちを自分のものとして考えていくきっかけになると思う。しかし、それ以外にも児童館、学童クラブ、子ども会などがある。地区委員会と児童館との関係は。
- 委員 地域によって差がある。貝取には児童館はない。隣の豊ヶ丘にはある。声がけをして最近では貝取と豊ヶ丘と一緒にやることが増えているようだ。
- 委員 児童館はコミュニティセンターとは別の施設にあるのか。
- 委員 複合施設で一緒になっているところはある。
- 事務局 児童館単体もある。
- 委員 児童館のエリアと地区委員会のエリアが同じではない。
- 委員 豊ヶ丘の児童館や学童クラブに通っているのは南豊ヶ丘の子どもたち。子どもとコミュニティは一つにはくくれない。子どもに係る活動はあちこちである。子どもにしてみれば選択肢がいろいろあることになる。
- 委員 子どもということが自治の中でどう関係していくのかということも考えていかなければいけない。子どもたちに活動の場を提供する大人たちと活動する子どもの背後にいる保護者たちを考えると、子どもにとってはいろんな選べるものがあることは良いが、地域づくりにとっては、地域の中で子どもということを考えて地区委員会の存在は大きいと思うが、そこまで期待するのは行きすぎか。
- 委員 コミュニティの単位、大きさについては避けて取れないと思う。地区を共通にするのか今までのつながりを優先するのかいろいろあるが、外からみるとコミュニティセンターの地区割りで良いような気もするが。
- 委員 入り組んでいるのはしょうがないと思う。接点が沢山あるほうが、子どもにとっても多くのチャンスがあると思う。コミュニティセンターだけに頼るのは難しいことを以前の自治推進委員会の視察で感じた。コミュニティセンターは地区委員会の中で関わりをもってもらうということであれば、十分力を発揮すると思う。地区によって違うとは思いますが。

委員 いろんな組織がいろんな状態で有機的につながっているのが良いと思う。変に整理する必要はない。

委員 コミュニティセンターで何か中心になって行事を開催するときに、地区委員会がいろいろなコミュニティセンターから呼ばれて負担がかかるということはあるのか。

委員 単体ごとで関わっている地域はバラバラ。コミュニティセンター、地区委員会などでも。負担感はあると思う。

委員 夏祭りやどんど焼きなどの地域の催し物は地区委員会の主催でやる時、共催のときなど様々だ。市から出るお金もいろんなところで重なっている。どこかで交通整理する必要があると思う。

委員 地区割りの問題、役割の問題、他の団体との関係、組織問題が出てきた。子どものことを念頭に置きながら、コミュニティ自治を考えたらどうなのかということを引き続き考えていきたい。

次に多摩市自治会・町会・管理組合実態調査の結果について議論する。12月6日の報告会の資料説明を。その後報告会に出席した二人の委員会から感想を述べる。

事務局 (報告会の資料説明)

委員 自治会の問題としてお年寄りが多く、若者がいない。実態調査は自治会と管理組合を分けて考えているが、同レベルで考えるのは問題があると思う。性格が違う。管理組合は建物の修繕など施設関係が主になる。地域のコミュニティ団体の中で、自治会の潜在力は他の団体と比べて優れていると思う。それにもかかわらず新しい問題にチャレンジするのは難しいようだ。他の団体が自治会をどう思っているのかわからないが、自治会は敷居が高いという意識があるようだ。

委員 出席してまず、参加者の年齢が気になった。報告会の参加者は自治会の会長がほとんどで高齢者が多かった。調査結果で印象に残ったのは、地区委員会と同じだが、会長をする人がなかなかいないということ。それが組織の硬直化に結びついている。また、自治連合会に加入しない理由として、参加することにメリットがないということが高い割合だった。新しいことをやっていくことより、現状維持の部分が多いという説明があった。連携している団体はどこかという問いにもゼロの割合が高かった。活動情報の伝達手法の問いにおいて、ホームページと答えた団体はゼロだった。参加者の発言では、会長のなり手がいないということ、会長の資格のようなものを行政が基準を設けるべきだという意見、多摩ニュータウンの中でもいろいろな住居形態があるので住居形態ごとに調査して欲しかったという意見があった。また、行政に対する期待が自治会の中にあるようだ。具体的にこういうことが市のためになるといってもらえるとありがたいという意見もあった。報告会の説明者からは、何をすべきであるというのではなく、何ができるかということを通して新しい視点で考えていく必要があるとの説明があった。今後も調査を進めていくようだ。調査結果について意見はあるか。

委員 加入率だが、自治会の5割が90%を超える加入率という結果である一方、無回答が23%ある。正確なデータが抑えづらい。市は個別に世帯ごとに加入しているか把握しているのか。

事務局 していない。

委員 そちら辺の話はなかった。

- 委員 自治会の加入率には管理組合は除いているのか。
- 委員 そこら辺はあやふやだと思う。集合住宅に加入を要請する自治会もあれば、そうでない自治会もある。
- 委員 人の派遣や行事参加などのネットワークの調査結果では、青少年問題協議会がかなり上位にはいつている。青少年問題協議会は自治会からみれば存在感があると思った。コミュニティセンターが入っていないのはなぜか。
- 委員 ボランティアとして個人レベルでコミュニティセンターに参加しているからだと思う。
- 委員 管理組合が組合として自治会に加入しているのはどんな形か。
- 委員 組合として加入したり、組合の各世帯が加入したり、形態は各自自治会でバラバラ。
- 委員 リーダー在任期間の調査結果は、自治会の会長は長く、管理組合の理事長は単年度で短い。少数で輪番が行われることはあるのか。
- 委員 自分のところは号棟別に輪番制になっているので、必ず毎年かわっているが、総替えは問題だということで、今は2年任期で半分ずつ代わる可能性がでてきた。
- 委員 資料の中で、管理組合と自治会の差が大きい活動を取りあげているが、何があるか。防犯は自治会・町会の方が管理組合より多い。
- 委員 戸建だから。
- 委員 高齢者の見守りは全体的に多くない。
- 委員 デイケアサービスで朝迎えがくるとき、集合住宅に住んでいる人の場合、階段はどうするのか。
- 委員 車で迎えに来た人があがってくる。一緒に住んでいる人が外まででてくるが、手を貸しているようではない。
- 委員 車椅子の場合はどうするのか。
- 委員 車は車、人は人で運ぶ。
- 委員 そのあたりのことは福祉のプロの人にまかせているのだろうか。
- 委員 自分のところの自治会では、人が亡くなったときは会長が香典を持っていく。従来は回覧板で知ったが、近年は密葬、家族葬が増えているので隣近所の方が亡くなったのがわからないことが増えている。
- 委員 知らせを掲示板に出したくない人もある。個人レベルのことになってしまっているのだろうか。
- 活動内容に戻ると緑化の活動は管理組合において割合が高い。緑化は団地の敷地の中の緑を住民で管理すること。極論だが、緑化にはスポーツやレクリエーションの部分もかなり含んでいる。何かをきっかけにして人と人がつながるきっかけになる。家の中にこもっているよりは、緑化の活動を通じて集う場になっているように感じる。
- 委員 自治会は他のコミュニティと比べて扱う課題が多い。自治会が動かないと他の団体ががんばってもなかなか活動が進まない。自治会があらゆる課題を取り扱っている一方で抱える問題も多い。
- 委員 防災に関することは、管理組合も多いが自治会も多い。戸建が多いからか。
- 委員 市の方から防災組織をつくるようにと言われる。
- 委員 活動情報の伝達手法については何かあるか。メールはあるがホームページがないという結果のようだが。

委員 管理組合や自治会の役員同士のメールのやり取りはあると思う。限られた人だけのやり取りだからホームページもないのかなと思う。役員の年代によるところもあるのだろうが。

委員 他市の事例だが、ホームページで表彰された自治会もある。町内会の結びつきを強めるための工夫として。

委員 行政の働きかけのところでは、自治会、町会よりも管理組合の方が自治連合会に期待している。加入団体同士の連携も管理組合の方が高い。運営のアドバイス、相談では、管理組合の方が自治会より多い。数字だけだと管理組合が自治会に近い組織になろうとしているともとれるが、非加入の理由を見ると単一の自治会、管理組合の活動で十分だからとなっている。なかなか興味深い結果となっている。

次回は1月20日が予定になっている。行政評価はどうなるのか。

事務局 事前に平成20年度の行政評価報告書と市民向けの概要版、それに第二期多摩市自治推進委員会が今年の3月に出した意見書を郵送する。次回はそれについての概要を説明する。

委員 次回以降は、行政評価のこともやりながら、自治会・町会・管理組合実態調査についての意見交換、ヒアリングの方向性の検討を行い、これまでのまとめが必要と思う。自治連合会や多摩大学の先生との意見交換はいつごろできるか。

事務局 現在、日程調整中。

委員 次々回とその次はいくつか候補を持っておく。それで調整しては欲しい。次々回は2月の15日、17日、19日か、その次は3月の16日、17日、18日とする。